

“まち歩き”のポイント

1 準備

★ カメラ

写真を撮ろうとする意識があると、普段何気なく見ているものもよく観察しようとなります。また、写した写真を見ることで初めて気づくこともあります。最近、デジタルカメラがよく使われていますが、フィルム付きのカメラでも大丈夫です。撮った写真は、話し合いやマップ作りに利用します。

★ 地図

どんなルートで歩くのかを記入したり、写真を撮った場所をマークする時に使います。住宅地図や大縮尺の地図が便利です。事前に危険箇所が分かれば、地図にマーキングしておきます。

★ グループ

数人のメンバーで1つのグループを作り、“まちを歩く”から“発表”までをグループ単位で行います。準備できるカメラの台数なども考慮してグループ数を決めます。グループ数が多い場合は、同じ場所に集中しないように、グループごとに歩くエリアを指定するもの一手法です。

★ テーマ

漠然と写真を撮るよりも、事前にテーマを決めることで、分かりやすい写真が撮れます。
 (例1：好きな景観、嫌いな景観、気になる景観など)
 (例2：通学途中の景観、気になる看板の景観、音や臭いにつながる景観など)



2 まちを歩く (写真を撮る)

★ グループ行動

メンバーがばらばらにならないようにグループで行動します。撮影に夢中になっていると、車の往来に気が付かない場合がありますので、お互いに気を配ることが必要です。(休日にまちを歩く場合は、家族の人と一緒に歩くようにします)

★ 写真撮影

グループで共有してカメラを使う場合でも、1人ひとりがそれぞれの思いで写真を撮るようにします。特定の人ばかりが撮ったり、代表して撮ることは良くありません。グループの人数やカメラの台数により、次の工夫をします。
 ・カメラの占有時間(例：1週間、土日、1日だけ、時間単位など)
 ・撮影枚数(例：50枚まで、30枚まで、20枚まで、10枚までなど)
 ※同じ物を撮っても、近づき具合や撮る位置・角度などで、全く違った写真になります。思った通りの写真になるように、自分が動いて撮る場所や角度を捜すことも大切です。

★ 撮影マナー

勝手に他人の敷地に入らないようにすることのほか、被写体や持ち主等に声を掛け、撮影の趣旨を理解してもらうようにします。(例：○○小学校△年の◇◇です。景観学習で○○景観を撮っています。写真を撮ってもいいですか?)
 また、写真を撮っている人の前に立ったり、撮影の妨げになることは絶対ないように留意します。



“まち歩き”とは

“まち歩き”と言う表現は、様々な分野でよく使われています。例えば、まちの名所や旧跡を訪ね歩く“まち歩き”。健康増進を目的とした“まち歩き”、いわゆるウォーキングなども“まち歩き”です。しかし、景観学習やまちづくり分野での“まち歩き”は、少し意味合いが違います。景観学習としての“まち歩き”は、“人が暮らすまちや集落を観察しながら歩き、気づいたことや感じたこと、考えたことなどをまとめ、それらを情報発信すること”です。

景観学習の意義と効果

- ・地域の現状を捉える……課題や問題などへの気づき(再認識)
- ・地域の成り立ちを知る……歴史、産業、文化、場所などへの愛着
- ・地域の将来を考える……暮らしが持続するまちをめざした取組
- ・世代を超えた情報の共有……まちづくりへの地域参加、共通理解

3 整理 (写真の選択、マップ作製)

★ 写真確認

撮った写真をプリントしたり、パソコンを使ったりして、写り具合を確認します。手ふれやピントが合っていないものは、撮り直すことも可能です。

★ 個人ベスト

テーマごとに写真を選んで、その理由や写真の説明を書き出します。グループの人数により、選ぶ枚数を工夫します。(例：ベスト20、ベスト10、ベスト5など)

★ グループディスカッション

各自が選んだ写真とその理由を発表し、グループ内での意見交換(質問や感想など)を行います。(例：同じものを撮ってる、変わった色・形、周辺と馴染まないなど)
 (例：この嫌いな景観直せない? こうすれば良くなる、この景観はずっとあればいいねなど)

★ グループベスト

各自のベストショットを並べどんな傾向があるかを話し合い、テーマごとにグループのベスト10を決定します。意見が分かれた場合は、決定方法を工夫します。(多数決、じゃんけんなど)

★ マップ作り

大きく拡大した地図にグループのベスト10を貼り付け、テーマごとの地図を作ります。位置や選定理由も余白を利用して地図に納めます。地図の大きさと貼り付ける写真の大きさに留意する必要があります。また、書き込みや色付けなどで、グループの特徴を示す興味深いマップに仕上げます。

4 発表 (情報発信、意見交換)

★ 地域の方々の招待

保護者や地域の方々を招いて、まちを歩いて感じたことや気づいたこと、話し合ったことなどを作製したマップを使って発表します。また、グループディスカッションやその後の調査等でも分からなかったことなどがあれば、会場の方々へ問い掛けをします。子供の視点が大人には新鮮であったり驚きであったりします。

★ 意見交換

発表した景観の中には、地域の歴史や文化、時代や季節、喜しや出来事など、それぞれの思い出がある場合もあります。地域の方々からも、その景観や場所に関わるいろいろな話をしてもらうことで、もっと地域のことを調べてみようという気持ちになったり、もっと地域が好きになったりすることにつながります。

★ 継続と発展

発表、意見交換を通して、もっと取り組みたいと思ったテーマや新たに取り組みたいテーマなどがあれば、出席者も含めて発表の最後に報告することで、景観学習の継続とさらなる発展へとつながります。(嫌いな景観の改善方法、沿道の美化緑化、景観に関わる環境・地形の調査など)

